



## 歴史を重ねてきた古材を活用する



壁材

調湿効果を図り、蔵の保管物を守り続けてきた



構造材

地元の材を使用し建物を支えてきた



敷石・灯籠

手仕事の素材力に加え年月を重ねた味わいが残る



壁材

印象をそのままにモチーフとして活用



化粧柱

空間のアクセントとして活用



外構部材

蔵のアプローチや新築住戸の外構材として活用



## 《蔵のある街づくりプロジェクト》

### 『ことのは 越ヶ谷』戸建分譲住宅完成

「蔵」と共に暮らす～4邸の特別な空間～

ボラスグループ  
株式会社中央住宅

ボラスグループで戸建分譲住宅を企画・販売する株中央住宅 戸建分譲第一事業部(本社:埼玉県越谷市、代表取締役社長:品川典久)では、一昨年より蔵の再生と分譲住宅の開発を一体として行う《蔵のある街づくりプロジェクト》を進めており、この程、4邸の戸建分譲住宅『ことのは 越ヶ谷』が全て完成し、3月18日から販売を開始いたしました。

#### 《蔵のある街づくりプロジェクト》

越谷には旧日光街道沿いの宿場町として発展し、蔵など歴史的・伝統的な建造物が残っています。しかし所有者の高齢化、建替え・開発等が進み、歴史を感じさせる街並み・景観が時と共に失われつつあります。

ボラスグループの今回のプロジェクトは、シンボルの“蔵”を移設・改修し、保存すると同時に、蔵と親和性のある、外観・外構計画による戸建分譲住宅(4邸)を建築するものです。

蔵はその敷地とともに今後越谷市に寄付し、地域住民、企業、行政が協力し、歴史ある建造物を残しながらも、住む人々が個々のライフスタイルを楽しめるような交流や情報発信ができる街づくりを目指してまいります。



#### 『ことのは 越ヶ谷』～「蔵」と共に暮らす～

江戸末期に建てられた蔵の曳家を行い移動し、再生した蔵とともに新築4邸「坪庭の家」、「縁側のある家」、「茶室のある家」、「土間のある家」の分譲住宅が完成しました。

この4邸は、蔵のデザインを踏襲しつつも、それぞれの邸宅が異なる和のデザインコンセプトを持ち、一邸ごとに質の高い住空間を作り上げています。蔵の構造部材などは新築4邸の内装材としても再利用され、蔵と融合しながら情緒豊かな街の風景を提案しています。



《越ヶ谷 蔵のある街づくりプロジェクト》『ことのは 越ヶ谷』は、2015年度グッドデザイン賞(住宅住空間部門)を受賞いたしました。江戸時代末期に建てられた蔵を曳家によって移動し、再生することで豊かな街並みづくりが実現できた点、さらに新築4邸に蔵という付加価値を提供し、優れたデザインが高く評価されました。

#### 『ことのは 越ヶ谷』

\*「ことのは」とは、日本の和歌で用いられてきた「ことば」を表す古語です。いにしえの人々が詠んだ和歌のように根差す地域文化と調和しながら、それぞれの家族の物語が住まいから紡がれていくことを願って名づけました。

## 『ことは 越ヶ谷』～「蔵」と共に暮らす～

街並み保全に繋がる街づくりを行うことで地域性を育んでゆくことを目指しています。

『ことは 越ヶ谷』の4邸「坪庭の家」、「縁側のある家」、「茶室のある家」、「土間のある家」は、それぞれ異なる和のコンセプトを持ち、蔵と融合し、情緒ある街の風景を作り上げるために配棟されています。



### 越谷市初の景観協定締結

和の美しい情緒豊かな街並みをそこに住もう人々がお互いに協力しあって保全に努めていくことで街の魅力は高まっています。『ことは 越ヶ谷』は2015年9月に、越谷市初の景観協定を締結。美しい街の風景を保全していきます。

蔵から御影石の道が通り、その路地に面して4邸が配棟されています。4つの優雅な空間の中に特別な蔵の風景が広がります。

#### ● 風情を醸し出す御影石

御影石が敷き詰められた道路、スリット側溝にすることで石の連なりが和の美しさを醸し出しています。

#### ● 電線地中埋設で美しい街並み

電線類を地中埋設することによって空を覆う電線がなくなり空を大きく望むことができ、美しい街並みを形成しています。

#### ● 木々の優しい風合い

ゾゴギやシャクナゲ、ヒイラギモクセイなどの景観樹木を4邸の住まいに植樹し、街全体にやさしい風合いを醸し出しています。

#### ● 美と機能性が融合したエクステリア

和皿をモチーフにした外水栓や伝統的な籠染灯籠をインターホン上部に用いた門柱などエクステリアは機能だけでなく、和の世界観を加えてデザイン性を高めました。



外水栓



門柱



雨水タンク